

助成年度：平成 23 年度

[所属] 岡山大学大学院 環境学研究科

[役職] 助教

[氏名] 氏原 岳人

[課題]

人口減少適応型のエコ・ローカルシティモデルの提案ー都市計画関連制度の新展開に向けた基礎的研究ー

[内容]

人口増加過程では、都市計画によって都市拡大をどのように抑制すべきかが焦点の一つであった。その一方で、現在では地方の都市部や中山間部は人口減少によってスポンジ状に縮退し続けており、社会インフラの非効率化・コミュニティの弱体化などの弊害が各地で生じている。この転換期において、計画のコントロール機能となるべき都市計画関連制度を、今一度再考すべきである。また、人口減少過程は、「人間活動と環境保全の調和」を計画コンセプトとして明示的に取り込むための、まさに「好機」でもある。

本プロジェクト(2011年10月～2012年9月)では、(1)地方都市を対象とした人口減少プロセスの時空間解析、(2)エコ・ローカルシティ実現のための居住地特性に着目した転居・定住及び居住地選択に関する要因分析、(3)エコ・ローカルシティ実現のためのスマート・シュリンクモデルの構築と適用可能性に関する研究を実施した。